

## ICT活用で確かな学力をつけよう（実践報告）

1  
2  
3  
4

学年・教科

2年・国語

単元名

見たこと、かんじたこと

実践者（所属）

清水 弘彦（下小田中小学校）

活動を始める前に

### （1）準備するもの

コンピュータ、プロジェクター、スクリーン、実物投影機  
【使用ソフト】パワーポイント

### （2）ICT機器やメディアの活用のねらい

パワーポイントで示された例を見て、作品の作り方を知る。  
実物投影機の使い方を知り、作品をスクリーンに提示する方法を知る。

5

### 指導計画

時	児童の活動	指導上の留意点
1	詩にふさわしい題名を考える。  身近な素材を探し、短い言葉で書き表す。  自分の作品を発表し、感想交流する。	クイズ形式で題名をイメージしやすいように作品をスクリーンに投影する。  題材が決まらない子にはヒントカードを渡す。 自分の作品を実物投影機を用いて投影する。

6

### 活動の流れ

時間	学習内容・指導上の留意点	児童の活動（利用メディア）
1	パワーポイント・スクリーン・プロジェクターを利用し、作品例を投影する。  画用紙を用いる。ヒントカードを渡して参考にさせる。  実物投影機を用いる。子ども自ら所定の位置におけるようにする。	パワーポイントで示された作品例を見て、ふさわしい題名を考える。  作品例を参考に、画用紙に作品を書き表す。  自分の作品を実物投影機で投影・発表し、感想交流する。

7

### 取り組み後の子ども達の変容や成果

作品例を大きく示し、さらに個別にヒントカードを示すことで、率先して作品作りに取り組むことができた。  
作品の題名やイラスト部分に紙で隠すことにより、感想交流が活発になった。

8

### 応用できます！

子どもの作品を黒板に掲示することは一般的ですが、後ろの子に見えるとは限りません。また子どもの手書きの作品は小さくなってしまいがちですが（今回は八つ切りの半分を使用）、プロジェクターを用いることにより、大きく示すことができ、みんなで個人の作品を共有することができます。

高学年になるとプロジェクターや実物投影機などの機器の接続ができるようになります。機器のセッティングに時間がかかる時に、子どもたちといっしょに行うことで、時間の節約ができます。

実物投影機とプロジェクター、スクリーンがあれば、教科や活動は限りなく応用が広がります。さらにコンピュータがあれば、広がりは無限です。ぜひご活用ください。